

天王台南地区令和元年度第1回定例地域会議議事録

1. 開催日時：平成令和元年7月14日（日）13：30～15：45

2. 場 所：近隣センターこもれび 多目的ホール

3. 参加者： 32名

【自治会】16団体 18名

天王台ファミリーハイツ自治会会長、笹山町会会長、我孫子市天王台自治会総務、パークハイツ我孫子台自治会会長、天王台十三自治会会長、藤和天王台ハイタウン自治会会長、東高野山自治会副会長、下ケ戸自治会会長、都部新田自治会会長、東我孫子区自治会会長、大久保町会会長・副会長、大久保台自治会副会長、アベニュー高野山自治会会長、小暮町内会会長、高野山自治会副会長、早稲田地区自治会会長・副会長

【天王台南地域会議推進委員会】2名 委員長、事務局長

【防災・防犯分科会】3名 座長、事務局2名

【子ども分科会】4名 座長、事務局3名

【地域活性化分科会】3名 座長、事務局2名

【我孫子市】2名 市民生活部市民活動支援課 課長・主事

4. 配布資料

- ① 天王台南地区令和元年度第1回定例地域会議資料
- ② 令和元年度第1回天王台南地区定例地域会議出席者名簿
- ③ ③「警戒レベルで全員避難」のお知らせ
- ④ 電話 de 詐欺に注意
- ⑤ 高齢者ドライバーの事故が増加（警察資料）
- ⑥ 天王台南地区あいさつ運動ポスター申込書

5. 議事

（1）開会、議事次第について（推進委員会事務局長）

天王台南地区令和元年度第1回定例地域会議を開催します。今日の会議のメインはグループ討議です。それに時間を割きたいと思います。

（2）推進委員会委員長挨拶

天王台南地区定例地域会議は毎年2回開催しています。本日は令和になり初めての会議になります。4つのグループにわけ、地域会議の活動テーマである防災・防犯、子どもの健全育成、地域の活性化に関して皆さんから「今後はこのようなことをしたらよいではないか」というようなご意見をいただきたいと思います。結果はグループ討議でまとめて発表してもらいます。問題点については今後の活動に生かしていきます。

(3) 市民活動支援課・課長挨拶

初めて地域会議に参加した方もおられますので「地域会議とはなんぞや」についてお話をさせていただきます。我孫子市では、平成25年に「我孫子市地域コミュニティ活性化基本方針」を策定しました。その中で地域会議が推奨されました。なぜこのようなことが考えられたかと言いますと、2つあります。一つは我孫子市は少子高齢化が進んでいます。今年の4月で高齢化率30%になりました。今後も右肩上がりです。人口減少、働き手の減少、我孫子市は工業団地がありません。皆さんの税金に頼る割合が高いです。そのような中、働き手の減少はよくない現象と当時考えました。二つ目は、皆さんも感じておられることですが「三軒両隣は他人」など、地域コミュニティは昔に比べて考え方が多様化し変わっています。これは致し方ないことですが、街の方がどうしているとかあまり気にならなくなっています。そういうことから『地域課題』が増えてきました。たとえば、高齢者の孤独死で誰も気づけなかったこと。子どもが虐待されていたことにも気づかない。気が付いても無視したりします。昔は地域課題はいらなかった。地域のコミュニティがだんだん衰退して希薄化するなか地域の課題が増えてきている。市役所として地域課題についての取り組みはこのままではダメだと考えています。たとえば市の職員が何人か地域に出ていき、高齢者の見守り、子ども見守りをやろうとしても、ほんとうにちょっとした力しかありません。地域の皆様のちょっとした気付きで解決につながります。防災についてもそうであります。最近、こちらの地区であいさつ運動をはじめていただき、防災、防犯また地域コミュニティの活性化に寄与していただいていると思っています。天王台南地域会議は早い段階からいろいろのことに取り組んでいただきました。「カラス被害防止ごみサークル」「天王台駅前の花壇整備」など目に見える形で示していただいております。市として有り難く思っております。今後も地域会議で決めた事を市として協力して、皆さまと協働して頑張っていきます。今後ともよろしくお願いいたします。

(4) 出席者自己紹介

(5) 地域会議の説明（推進委員会事務局長）

先ほど市民活動支援課の課長より説明がありましたので『地域会議』の説明は省略します。後で資料を確認してください。

(6) 令和元年度の地域会議の活動方針

1) 令和元年度の基本方針

あいさつ運動を基軸に各分科会が主体的に活動する。

2) 推進体制について説明

別紙（令和元年度地域会議の体制）を参照（会議資料7ページ）

★基本的には今までのやり方と変えておりません。事務局体制として地域会議推進委員会を設置し、その中に防災・防犯分科会、子ども分科会、地域活性化分科会を設けて対応していきます。必要に応じて拡大分科会を設置していきます。もし設置する課題があれば拡大分科会をそれぞれの各分科会が責任をもち設置し、委員は自治会、一般の方から募集し対応していきます。

★定例地域会議

年2回開催を予定しております。

★あいさつ運動推進委員会議

6月23日、第1回あいさつ運動推進委員会議を開催しましたが、あいさつ運動に限定して、方針などここで議論していきます。

3) 広報活動

★地域会議だよりを発行する。

- ・A4両面 4回/年程度、「こもれびだより」と同じように全戸配布を前提に考えています。

4) あいさつ運動について

基本的にはあいさつ運動推進委員会議で決定して推進していきます。

① あいさつ運動の目的・趣旨、基本方針

あいさつ運動の目的・趣旨は別紙資料を参照ください。(会議資料8ページ)
 少子・高齢化が進み、ITの進展により、隣、近所の地域の社会のつながりが非常に薄れてきています。『これを活性化するにはどうしたらよいか』という問いに、一つの手段としてあいさつ運動を前年度より取り組んでいます。地域コミュニティを活性化するうえには、人と人とのつながりが重要になります。そのために日頃のご近隣のあいさつが特に大切になります。そのことを広めていきたいと思えます。

② 具体的な活動

駅頭でのあいさつ運動のPR(天王台駅・東我孫子駅)を実施しています。

参加できる自治会にご協力をお願いします。

- ・毎月10日、ただし8月は9日、11月は11日に変更
- ・雨天などで中止の場合は翌平日に順延
- ・時間は7:00~8:00

③ 地域に見える活動の展開

★あいさつ運動に参加している自治会の協力を得て期間を定めて集中的にのぼり旗、ポスターにより、あいさつ運動の見える化を実現したいと思っています。

★夏まつりでのPR活動として

- ・笹山町会盆踊り(8/17~18)でのPR・町会に依頼のぼり旗の設置、うちわ配布(350枚)
- ・天王台市民まつり

推進委員により実施

のぼり旗の設置、うちわ配布（450枚）

・うちわ配布を希望する自治会は事務局にご相談ください。

④ あいさつ運動推進委員会議に未参加の自治会へのお願い

・あいさつの重要性をご理解頂き、ぜひ参加をお願いしたい。

普段、ご近隣のあいさつ、お付き合いがうまくいっているほど防災・防犯に有効と言われていています。そのような観点でご協力をお願い致します。

(7) 防災・防犯分科会配布資料の説明（防災、防犯分科会座長）

★防災・防犯分科会から皆さま方へのお願い

現在、水害、地震これが全国いたるところで起きています。関東でも大地震がいつ起きてもおかしくない状態になってきていると感じております。災害があったとき自治会長がまず対応を取らなくてはなりません。我孫子市役所も対応を取りますが、職員の数、市の予算では、すべての自治会をフォローする能力はありません。そこで各自治会で、もう一度自治会の防災体制を見直していただきたい。我孫子市では防災マップと洪水マップを配布しています。各自治会で自分の自治会はどのようなエリアに入っているか見直しをお願いします。全国的に防災マップは非常に役に立っているとテレビで報道されています。防災マップを確認した自治会は助かっています。自治会長の役割は防災・防犯に関しては、かなりウエイトが大きいと思います。是非、見直しをしていただき周知徹底をお願いします。防犯についてですが。家族の中のトラブルが多いです。『親が子どもを殺す』『子どもが親を殺す』など、このようなことは日常の家庭内のあいさつの習慣が関わっていると考えています。

もう一度家庭内で防災、防犯について話し合いをもっていただきたい。普段から行っていますと地域の皆さまが互いに助け合う、互いの助け合いは共助と言いますが、最近は近所という言葉に代わってきています。お互いに向こう三軒両隣のお付き合いが非常に大切になっています。

★配布資料は回覧、配布など自治会で活用をお願いします。

- ・ 「警戒レベルで全員避難」のお知らせ
- ・ 電話 de 詐欺に注意
- ・ 高齢者ドライバーの事故が増加（警察資料）

★あいさつ運動は防災・防犯において一番重要であると思っています。先ず家庭内のあいさつから始めて、それから隣・近所のあいさつができ、各自治会での広がりにつながるとと思っています。自治会の中でそのような環境を作っていただきたいと思います。それができれば新聞紙上での問題になる事件は起きないと思っています。よろしくをお願いします。

3. 意見交換

(1) グループ討議

自治会活動で疑問に思われていること、課題になっていること、地域会議で取り組んでほしい事などを下記に絞って、グループ討議を行います。

○進め方

- テーブルを4テーブルとします。
- テーブルごとの配置は、事務局で割り振りさせていただきました。
- 課題
 - ① 防災・防犯に関して
 - ② 子どもの健全育成などに関して
 - ③ 地域の活性化に関して

※どの課題を選択するかはテーブルごとに話し合いにより決めてください。なお、課題は1課題に特定しなくても可とします。
- 座長が司会を担当します。
- 書記を決めてメモの記入を担当します。
- 最後にグループ別に討議内容を整理し発表していただきます。
- 発表する方はグループで決めてください。

(2) グループ討議の結果発表

Aグループ（下ケ戸自治会会長、都部新田自治会会長、小暮町内会会長、高野山自治会副会長、早稲田地区自治会副会長）

- 防災に関しては自助を優先的にやらなくてはならない。
- 自助から共助（近助）に入っていく最終的には公助としていく。自助を徹底的に行う。（家族の飲料水、食料の確保、トイレへの対応、家庭内の話合と連絡網）
- 避難指示が出ても全員が避難所に入れないことを周知徹底しないと混乱が起こる。（避難場所と避難所の確認、避難施設の組織体制と収容人数）
子ども見守り隊の充実を図る。（高野山小）
- あいさつ運動はサークル活動で地域活性化、住民との交流をはかっている。
- 一般的なあいさつ運動よりもサークル活動のなかでの周知が効果ある。
- 避難レベル4 情報が出ても避難場所が遠いので避難できない。
- 地域の土地柄により防災意識の違いが良く分りました。
- 築40年以上の建物が多いのでシルバータウン化している。
- 自主防災対策の啓蒙活動の徹底（避難所には最悪の場合のみいく）
- 早稲田地区はうなぎの寝床になっているので斜面の崖が集中豪雨、地震で崩れる恐れがします。地域の中で周知を図る必要がある。
- 小暮町会是一般の住宅と一戸建ての住宅と防災・防犯意識の差異がある。
- 東我孫子区自治会、高野山自治会区域は新住民が増えているなかで増加による諸問題があります。（防災意識、ゴミ問題、外人問題、新旧住民の意識の差異等）
- 空き家問題と地域対策が今後の課題。
- 高齢化の地域活動をどうするか。
- あいさつ運動の大切さが地域の交流活動にも大切である。

- ・ あいさつ運動はサークル活動から広めていく。

B グループ（我孫子市天王台自治会総務、東高野山自治会副会長、大久保台自治会副会長、天王台十三自治会会長）

- ・ どちらの自治会も防災・防犯に関心をもっています。
- ・ 防災組織を持っている自治会ともっていない自治会があります。
- ・ 世帯数が 13 世帯から 600 世帯の自治会グループ討議であったため統一したお話にならなかった点がありました。
- ・ キーワードとして「空き家」がでてきました。繁茂しているお宅について市民安全課に相談する。実害のある空き家について早い対応を取ってくれました。
- ・ 建物のない空き地の除草は消防署に連絡する。
- ・ 防犯カメラの設置については抑止力になるがプライバシーが関わるので自治会としての設置は難しい。
- ・ 防犯カメラを設置しても、だれがモニターするか問題があります。
- ・ 子どもに関してはどの自治会も人口減少傾向である。
- ・ 新しい住宅が出来たところには子どもがいますが、自治会の中でのコミュニケーションが難しい。
- ・ 地域活性化という言葉は難しいので地域内、自治会の中でのコミュニケーションについてどんなかたちで進めているかお伺いしました。
- ・ 自治会内の連絡、役員会の連絡手段は LINE（ライン）、メールを使用している自治会がありました。
- ・ 高齢化の進んだ自治会の連絡手段は LINE（ライン）、メールを使用できないので連絡手段は回覧、電話を使用している。それが負担になってきている。
- ・ 緊急連絡はどうするか問題として課題になりました。
- ・ 回覧版は廃止ではなく、回覧版は渡すとき隣の方とのコミュニケーションがとれる手段となり情報交換がとれる。
- ・ 自治会の会費の集金も情報交換がとれる。
- ・ バス旅行をする自治会もありコミュニケーションをとれる交流の場となり、情報交換がとれる。

C グループ（笹山町会会長、東我孫子区自治会会長、大久保町会会長、早稲田地区自治会会長）

- ・ 一番意見の多かったのは防災・防犯でした。特に防災についてでした。
- ・ 具体的に防災訓練はどのように行っていますかと伺いました。
- ・ 毎年行っています。しかもパターン化し繰り返し行うことが重要である。
- ・ 安否確認訓練は毎年行っています。安否確認のタオルを掲げそれを確認することを班単位で行っている。
- ・ 否定的な意見として、組織はしっかりできているが、いざそれが機能するかどうか非常に不安が残る。

- 自治会の皆さまが共通して高い意識を持っているかと言うとそうではないです。
- 防災意識の非常に低い方も多いです。
- 活動の単位は班ごとの活動が基本になっているが、なかなか班ごとに動いていくことが難しい。近所である向こう三軒両隣、日頃から親しくして、安否や様子を確認することが必要である。
- 高齢者への配慮については、要支援者名簿が用意されていますが、自治会としてどう対応すべきか苦慮する。自治会会費を集金するときにそれとなく様子を伺うことにしています。
- 市の要支援名簿に頼ることなく自治会独自にアンケートをとり把握することに努めている。プライバシーに関わる点が多いので扱いに関しては慎重にならざるを得ない。
- 非常時の用意としてしっかり食糧、水等を備蓄している自治会もありますが何も用意していない自治会もあります。
- 飲料水に関しては停電時に備え発電機を用意している。
- 発電機はガスかガソリン、どちらを使用したら良いか把握できていない。
- 現在はガスを使用する傾向にあります。
- 防犯に関しては意識の高い方は自ら防犯パトロールに登録され朝、夕、夜防犯パトロールを実践されている。
- 子どもに関することは、最近は子ども会に入会する人が少ない。原因は子ども会の役員をしたくないことにあります。
- 高齢者の支援として、ごみの当番は輪番制が多いが、特に希望する方は当番を飛ばし、代わりに当番をしていただいた方に報奨金として1000円(1回)を支給している。その財源は資源ごみ回収奨励金を当てている。
- 結論ですが、隣近所の人を助けるためには、まずは自分自身が生き残る必要がある。そのために「自分自身の身を守ることに心掛けましょう」となりました。

Dグループ(天王台ファミリーハイツ自治会会長、パークハイツ我孫子台自治会会長、藤和天王台ハイタウン自治会会長、アベニュー高野山自治会会長)

- Dグループはマンションに住んでいる方が多いです。
 - マンションの方の発言、防災は震災と火災の二段階で考えて取り組んでいる。
 - 長い期間、継続している役員がいます。
 - 震災が起きたときはマンション内退避。
 - 年一回防災訓練を実施しているが参加者が少子高齢化にともない減少傾向にある。他の自治会も同様に参加者が少なくなっている。
- それについてどのように対応すれば良いかとの話のなか具体的な意見は出ませんでした。SLとか東急つくしの団地とか活発にやっているところに見学してはどうかとの意見があった。
- ある自治会は防犯パトロールを第三土曜日に決めて実施している。それは

最近、空き巣が多いためです。駐在所の人に巡回してもらっているが、防犯カメラが設置できないものかという話しになりました。市の補助金があるが半額補助なので高額が必要なため小さな自治会では困難、隣接した自治会の会長と連名でお願いしたらとの意見があった。

- 空き家の草ぼうぼうの件は管理組合にお願いした。
- マンション内でテレビの音がうるさいとかドアの音とか騒音問題があります。
- 親があいさつをしなければ子どもはしないだろう。先ず大人があいさつするようにしていく。
- 学校で知らない人に挨拶するなど指導されているが、隣近所の中で子どもとも顔見知りになることが大切では、そのために大人同士のあいさつが大切
- 地域活性化として月一回集会場で「あびこの歌」という運動をして交流の場を設けています。人と人との触れ合いの場が必要、自治会でそれをつくりたい。
- みんなの集まる場所がなくなってきているので、昔のお寺のようは居場所として「子ども食堂」のようにみんなが集まって食べたり、飲んだりする場所があれば良いと思います。

4. 閉会のあいさつ

活発なご意見をいただきました。整理をして議事録として皆さんのところにも配布します。きょうの議論を受けて推進委員会のなかでどう考えていくかを含めて議論していきます。

以上

記録 防災・防犯分科会